



おかげをもちまして、本堂改修工事並びに山門、唐破風新築工事もほぼ完成となり、あとは追加工事の塀の塗り替え、トイレへの縁板張替、庇の取り付けなどの一部を残すだけとなりました。

勧募状況もほぼ順調にご協力をいただいております。来年にはおおよその目安もできるものと、確信いたしておりますが、追加工事、御遠忌費用等を算定いたしますと、まだまだといったところです。

皆様には大変に大きなご負担をおかけいたしておりますが、今後ともより一層のご支援、ご協力をお願いいたします。御遠忌当日には「稚児行列、婦人部コーラス？仮称」など計画中。もちろん法話もありますし、意外なイベントもあるかも！と言ったところですが、全門徒こそって関わりあえる御遠忌として、また共に慶びあえる一大行事となるよう願っています。(詳細は裏面にて)

『東北慰霊の旅』

M・M

去る五月十五日から 東北慰霊の旅をさせてもらいました。

私どもはTVで被害のさまざまを見ておりますが、さしさわりのない範囲での映像にとどまっています。ユウ チューブ(インターネット動画配信ページ)では、痛ましい犠牲者のすがたや被害のむごさが、生々しく公表されており、被災地の実状が胸にせまります。

慰霊の旅を思い立ったのは、犠牲者や家族の痛み、悲しみ、くやしきなどをお慰めするためには現地に赴いて礼拝するほかないと思っただけです。

訪れたところは、仙台、気仙沼、陸前高田、大船渡、釜石でした。すでに一年が経っており気仙沼の表通りは、災害のはげしさが分からないほどに立ち直っており、復興の早さが印象に残りました。ただ一本松で有名になった陸前高田は、地形的に津波の猛威にさらされ、全市壊滅状態の惨状でした。犠牲者も多く、大量のガレキのまえて慰霊をさせていただきました。

リアス式海岸で入り江が多く、途中小さな集落が全滅したところが点々とあり、津波のおそろしさを実感させられました。しかし、どこでもガレキを整理して着実に復興に向かいつつあり、どんなに破壊されても、また立ち直っていく、人間の回復力に頭が下がる思いでした。

住職の一言

自らが現地に足を運ばれ、生々しい悲惨な状況の中で、多くの犠牲者に静かに手を合わされているMさんのお姿は尊いものだと思います。被災された方々の思いに心を痛められ、居ても立っても居られない強い思いがMさんを突き動かしたのでしょう。自らがそこに身を置き、自らの身を通して感じられた重さは、理屈を超えたものがあることでしょう。本堂にご苦労様でした。勉強会でもご報告していただけたらと思っております。



